

ウィッグ(かつら)の選び方

【ウィッグ(かつら)の購入方法 - 試着して購入するようにしましょう】

一般的にウィッグ(かつら)は専門メーカーやファッション雑貨店、通信販売などで購入することができます。購入する際は、直接質感を確かめたり、試着したりすることが大切です。例えば洋服を購入する時に、見た目で気に入っても、試着をすると「似合わなかった」、「サイズが合わなかった」という経験があることと思います。同様に、ウィッグも見た目と試着をするのでは、イメージが異なる場合があります。また、サイズが表示されていても、人の頭の形はさまざまですので、部分的にサイズが合わないこともあります。ウィッグを購入する場合は、できる限り試着をして購入するようにしてください。

【ウィッグ(かつら)の種類 - 医療用ウィッグとおしゃれ用ウィッグ】



ウィッグには「医療用」と「おしゃれ用」とがあります。見た目は同じようなのに、「何が違うの?」と疑問に思われることでしょう。簡単にお伝えします。

医療用

頭皮に直接当たることを前提に製作されています。

裏側の素材が頭皮にやさしく、通気性が良いなど、頭皮に負担が少ないように考慮されています。

おしゃれのバリエーションを得ようとすると、コスト高になる場合があります。

おしゃれ用

髪の毛があることを前提に製作されています。

ウィッグ(かつら)の髪の毛の量が少なかったり、もみ上げや襟足の所が短かったりすると、頭皮全体をカバーできないこともあります。

ウィッグの裏側の素材が「医療用」ほどは、考慮されていないことがあります。おしゃれのバリエーションを気軽に楽しめます。



【ウィッグ (かつら) の作り方の違いと特徴】

ウィッグ (かつら) には既製品、セミオーダー品、フルオーダー品があります。値段や品質、手元に届く時間などに違いがあります。まず、それぞれの特徴を知りましょう (詳しくは、各販売店で確認しましょう)。

既製品

スタイルがある程度決まっているので、自分に合うスタイルを選びます。サイズの調整ができるものとできないものがあります。比較的安価なものからあります。購入した日から使うことができます。

セミオーダー品

スタイルや毛質など、いくつかの選択肢の中から選ぶことができます。メーカーによってシステムや納期が違うので、前もって確認が必要です。フルオーダー品に比べると安価で、フルオーダー品に近い満足感が得られます。

フルオーダー品

頭の型どりをして、スタイルや色、毛質などを自由に選べ、希望通りのヘアスタイルを目指すことができます。

自分の頭の型をとって合わせるので、フィット感があります。価格は高めです。

手元に届くまでおよそ1~3か月かかるので、作る時期を考慮しましょう。

あまり髪型を変えたくないな

仕事の時だけ使おう

〇日までにほしいな



【毛質の違いと特徴】

ウィッグ(かつら)の毛質には人工毛(合成繊維)、混合毛、人毛があります。それぞれの特徴を把握して選びましょう。

人工毛(合成繊維)

アクリル系またはポリエステル、ポリアミドなどで作られていて、人毛よりも軽くできています。

素材によっては耐熱性のももありますが、摩擦や静電気に弱いので、後からパーマやカラーの変更はできません。また、てかり感があります。

混合毛

人毛と人工毛(合成繊維)をミックスして作られており、形はくずれにくいですが、後からパーマやカラーの変更はできません。

また、人毛部分が色あせすることがあります。

人毛

特殊加工した人の毛髪です。ドライヤーでセットしたり、パーマやカラーを変更したりすることもできます。

自然な質感を楽しめますが、色あせや枝毛などのダメージを受けることがあります。色あせにはカラーを施せますが、回数には限度があります。

人工毛(合成繊維)	人毛
○軽い △摩擦、静電気に弱い △熱に弱い素材もある △後からパーマやカラーの変更はできない	○自然な質感 ○後からパーマやカラーの変更ができる △色あせや枝毛になる △においがつきやすい

【その他のポイント】

価格を検討する

ウィッグ(かつら)の価格は、作り方や毛質などによって異なります。数千円のものから数十万円のものまでさまざまです。

自分にとってどのようなものが良いか、よく検討しましょう。

【ウィッグ(かつら)の価格について】専門メーカー店と量販店

専門メーカーと量販店などの価格を簡単にまとめると以下のようになります。なお、ウィッグ(かつら)はそのまま使うこともできますが、自分に似合うようにカット(スタイリング)して使うことが一般的です(16ページ参照)。

専門メーカー

安価とされる既製品でも
万単位の費用がかかる。

カット(スタイリング)料金が
含まれている。

量販店など

数千円から購入できる。

カット(スタイリング)料金は
別途必要になる。

【医療用ウィッグ(かつら)購入支援について】

現在(2026年1月)、ウィッグ(かつら)は医療費控除の対象ではありません。

ただし、医療用ウィッグ(かつら)購入費の助成制度を設けている自治体があります。助成対象、金額、申請方法などは自治体で異なりますので、詳細はお住まいの自治体にお問い合わせください。



サイズが調整できるか

頭の大きさは、髪の毛がある時とない時では1~2cmほど変わります。毛の量が変化し、頭の大きさも変わっていくので、購入する時は考慮しなければなりません。

サイズが調整できるウィッグ(かつら)を準備すると安心でしょう。

使う時期はどうか

治療時期により、ウィッグ(かつら)をつけると蒸れることもあります。特に暑い夏場は裏側のネットが通気性のよいものを選んだり、付け毛をつけた帽子をかぶったりするとよいでしょう。

裏の構造はどうか

ウィッグ(かつら)の裏の構造によっては、かぶっているとかゆみを感じたり、チクチクしたりします。裏の構造についても確認しましょう。



人工皮膚つき。
目が細かくてやわらかい。



人工皮膚はついていない。
目が細かくてやわらかい。



目が粗くてかたい。
間から毛が入り込み、
刺激になることもある。

分け目はどうなっているか

分け目がネットの場合、座った状態などで上から見られるとネットが透けてウィッグ(かつら)だとわかってしまうことがあります。また、上からの視線が気になるという方もたくさんいらっしゃいます。

地肌のように見える人工皮膚のものもありますので、販売店で確認してください。



ネット



人工皮膚

別売りのネット類を活用する

ウィッグ(かつら)の下にかぶるネットの種類には、フィット感を良くするもの、汗の吸収をよくするもの、ウィッグの分け目部分を隠すものなどがあります。ウィッグのつけ心地をよくするためにも、必要に応じてネット類を上手に活用しましょう(ネット類の種類は販売店によって異なりますので、用途については販売店で確認してください)。

なお、ネットを着用していると、ウィッグがずれた時に気づかないことがあります。また、厚手の素材になると、暑いだけでなく、シルエットにも影響がありますので、注意しましょう。



例: 分け目部分を
隠すネット



ネット着用前



ネット着用後

【 男性がウィッグ (かつら) を選ぶとき 】

髪の毛を短くしている男性がウィッグ (かつら) を選ぶ時に気をつけていただきたいことは、もみあげや襟足の状態をどの程度表現できるか、髪の毛の調節はどの程度できるかという点です。

ウィッグを使用することにより急なヘアスタイルの変化が生じてしまうと違和感が強くなるかも知れません。

一般的に既製品の場合では短くカットしても、もみあげや襟足などの調整は難しいのが現状です。

短い髪型の
ウィッグもある
のかな。



ウィッグと帽子は
どっちがいいかな。

